



# YMCA NEWS

## 金沢青年

HP 版 No.4 (2005 年 6 月号)

発行所: 金沢キリスト教青年会 〒920-0998 金沢市里見町 44-1 里見タウンハイツ 201  
TEL/FAX(076)221-5398 <http://www.ys-chubu.jp/kanazawaymca/>

### 盛夏に想う

金沢 YMCA 理事長 井上 良彦

夏が来ました。盛んな夏です。すべての生命がきおいたつような勢いで、この季節にひしめいているのを感じます。

YMCA というと夏が私には連想されます。海岸でも山辺でも、YMCA の活動は夏の季節に展開されているような印象が強いのです。

金沢 YMCA は再建途上です。全国の兄弟たちから祈りと献金をいただいています。その愛情と熱意に私たちは応えなければなりません。必ずや、金沢 Y がふたたび活発な姿をとりもどすことでしょう。

この春は、中国や韓国で反日デモがあちらこちらで燃え上がりました。真相は国家の情報宣伝が仕組んだ見えすいたものですから、まともに相手にするのは愚かでしょう。けれども、彼の地の暴発に対して、日本の若者たちが何の反応も示さないのはどうしてだろう、と問うた人がありました。

冷静で大人なのは結構なことです。ただ、何ごとによらず世の中を動かし先頭をきる若者の姿を見ることがあまりありません。青年たちの活気と純情がこの国を盛んな夏のように勢いづけてほしいものです。将来をひらくことこそ、YMCA に期待される大事な任務ではないでしょうか。



### 2005 年度金沢 YMCA 定期会員総会の報告

去る 5 月 28 日(土)、金沢市長町研修館にて日本 YMCA 同盟全国国内協力主任主事の佐竹博氏を迎え、定期会員総会が開催された。開会礼拝後、井上良彦理事長・常務委員長のあいさつ、日本 YMCA 同盟の佐竹博氏から同盟報告を兼ねてのあいさつが行われた。

2004 年度の事業報告、決算報告、監査報告が行われ、承認された。次に 2005 年の事業方針、事業計画、予算案が説明され、承認された。地域における YMCA の PR 方法や会費の収集方法などについて話し合われた。

理事・常務委員長の改選・補充選出は、以下のとおりである。

理事長・常務委員長: 井上良彦

理事・常務委員: 朝倉秀之、数澤輝夫、澁谷洋太郎、田口昭典、俵 守彦、平口哲夫

常務委員: 影山雅一、斎藤忠夫、三谷信三、山内健司、山谷 澄



(左端:井上理事長・常務委員長、右から二人目:事業方針・事業計画等について述べる数澤理事・常務委員)



(窓際の右端:日本 YMCA 同盟全国国内協力主任主事・佐竹博氏)



## 《活動報告》

### ゆきん子キャンプ in スカイ獅子吼

1月22日、天気が良くパウダースノーという絶好のコンディションでの活動となりました。北陸鉄道で加賀一の宮駅まで電車で行き、パーク獅子吼まで歩きました。スカイ獅子吼へはゴンドラで上がりました。子どもたちの中には初めてゴンドラに乗る子もいて初体験にドキドキワクワク。

午前中はソリ遊びをしました。広いソリゲレンデがあり、みんなで競争したり、二人で滑ったりと楽しみました。バランスを崩してソリを置き去りに自分だけ転げ落ちている姿も・・・。

お昼はお母さんが作ってくれたお弁当を食べ、午後は周辺の散策やG対抗ゲームをしました。前日に雪が降ったこともあり、誰も踏み入っていない深雪にダイブしたり埋まったりと、思う存分雪まみれになりました。新雪の中を歩くのはリーダーのほうが大変で、子どもたちは足首までしか埋まらないところでも、リーダーは体重が重い分、膝まで埋まってしまう。競争をしても断然子どもたちのほうが早く、リーダーは悔しい思いをしました。G対抗ゲームでは、ソリリレーをしたり雪玉をつくっての当てゲームをしたり、とても白熱しました。休憩では、温かいスープを飲み、みんなホッと一息。

帰りの電車の中では眠ってしまう子もいて、みんな元気いっぱい雪を楽しんできました。

## さくらっ子キャンプ in 医王山スポーツセンター

2005 年度の最初の活動は 4 月 23 日のデイキャンプでした。移動は初めての貸切バス。バスの中ではゲームをしながら楽しく過ごしました。

午前中は今日の昼食作りです。炊き込みご飯と豚汁を作りました。女の子が多く、包丁さばきもお手のもので、たくさんある材料をテキパキと切っていました。なかなか火がつかず、ひたすらあおいでいてくれたり、薪をたくさん集めてきてくれたりと、男の子たちも頑張りました。その甲斐あってか、ご飯の炊き加減は抜群でオコゲがとてもおいしく、豚汁もほとんどの子がおかわりをし、みんな大満足でした。

午後からはポイントラリーをしました。「この袋に 1 キログラム土を入れなさい」の課題では、500 グラムのペットボトルのヒントを頼りに両グループとも誤差 100 グラム以内の僅差でした。「30 センチ以上石を積みなさい」では、なかなか石がなく、遠くから探して運んできていました。そのほか、四つの課題をグループで遊びました。ロープの上を地面に落ちずに渡りきるという難しいものもあり、何度も何度も挑戦している子もいました。

天気にも恵まれ、楽しい1日があつという間に過ぎてしまいました。

## 「金沢わいわい寄席」とYMCA

澁谷 洋太郎

「金沢わいわい寄席」をやりたいと、5、6 年前から森乃福郎師匠(山田信吾ワイズ)にお願いをしてきました。金沢 YMCA の体制が一新されたときに、活動開始への「引き金」のチャンスを兎と考え、秋の理事会で OK をもらいました。

思いだけが先行し、どんな準備が必要なのか皆目わかりません。たまたま、私がボランティアとして参加している「金沢の若き演奏家を育む会」が県立音楽堂交流ホールでコンサートを開催することになり、どんな準備作業がされるのか、これをまねれば良いと考え、必死にノウハウを盗みました。コンサートは1月開催、「わいわい寄席」は3月開催と、2ヶ月の時間差で実施する綱渡りのような状況でした。

問題の1はチケットの販売です。@1500 円で 150 枚以上の販売が必要です。金沢犀川クラブの皆さんが積極的に協力していただき、販売は人の数とルートの数と改めて思いました。それでも販売状況が心配で心配で大変でした。

問題の2は当日の運営です。運営には金沢クラブ、金沢犀川クラブのパワーをもらいました。元富山 YMCA のリーダーたちの協力が一番のポイントでした。このリーダーたちの協力が次の活動へと繋がったからです。「引き金」の役割を果たしたからです。収益が出たことよりも、このリーダーたちの協力が得られたことが最大のポイントでした。

今年の「金沢わいわい寄席」も成功裏に開催できました。来年もやるとの声もあります。しかし、金沢 YMCA の課題は両手に余るほどあります。今は、一生懸命に走っている状態です。立ち止まって考えることはこれからです。ボランティア YMCA の悩みです。誰かが考え運営してくれるのではありません。誰もが参加しなければならないのです。「金沢わいわい寄席」が、動き始めた金沢 YMCA の一助になればと思います。